# 令和2年度

# 学力向上を図るための全体計画

# 65 練馬区立八坂小学校 (様式 1)

### 社会の要請

- 〇学習指導要領
- 〇東京都教育委員会教育目標
- ○練馬区教育委員会教育目標など

### 教職員の願い

- 〇確かな学力と豊かな人間性 の育成
- ○学習スキルの定着

### 道徳教育の重点

- ○学校の教育活動全体を通し てよりよく生きるための基 基盤となる道徳性を養う。
- ○道徳科の充実を図り、道徳 的価値を深め、児童の自覚 を促し道徳性を高める。

## 総合的な学習の時間の重点

- 〇自ら課題を見付け、学び考 え、主体的に解決する力を 養う。
- ○探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の横断的・総合的な学習を通して、自己の生き方を考えていくための資質・能力を養う。
- 〇児童が自信をもって、学習 したことを発表できるよう にする。

### 本校の学校教育目標

〇よく考える子 〇心ゆたかな子 〇たくましい子

### 校長の学校経営方針

## 「笑顔あふれる八坂の子 みんなで育てる八坂の子」

- ○学力の向上
- 〇豊かな心の育成
- 〇体力の向上・健康安全教育の推進
- 〇みんな(地域・家庭・学校)で育てる
- ○教員の資質向上

### 本校における「確かな学力」

### 〇自分で考える力

- ・自ら課題をもつ ・工夫して解決する 等
- 〇共に学び合う力
- ・友達との話し合い ・地域の方との関わり
- 〇基礎的知識
- ・読んで得た知識 ・聞いて得た知識 ・体験して身に付けた知識

### 各教科の指導の重点

国語科:言語活動を充実させ、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育む。 社会科:社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象の理解を深め、 公民としての資質・能力を育む。

算数科:数量や図形について数学的な見方・考え方を働かせ、基礎・基本の定着と数学的に考える資質・能力を育む。

理科:問題解決学習・自然事象への体験的な学習を充実させ、理科の見方・ 考え方を働かせ、科学的に解決するために必要な資質・能力を育む。 生活科:具体的な活動を通して、生活上必要な資質能力と自立への基礎を養う。

音楽科:表現・鑑賞の活動を通して、音や音楽と豊かに関わる資質・能力と情操を養う。 図画工作科:表現・鑑賞の活動を通して、創造的な資質・能力と情操を育む。

家庭科:実践的・体験的な活動を通して、日常生活を工夫する資質・能力を育む。

体育科:課題を見付け、その解決に向けた学習を通して、体育や保健の見方 ・考え方を働かせ、運動に親しむ資質・能力を育む。

外国語科:英語の言語活動を通して、言語やその背景にある文化に対する 理解を深め、積極的にコミュニケーションを図る態度を育む。

# 児童の実態

- 〇明るく素直な児童が多い。
- 〇表現する力・問題を発見する力がある。
- 〇自分で判断する力が育っていない。
- ○語彙が不足し、文章読解力が育っていない。
- ○特に算数科においては学力の開きが大きい。

## 地域・保護者の願い

- 〇確かな学力の維持向上
- ○話すカ、聞くカの向上

### 特別活動の重点

- ○明るく豊かな人間関係で結ばれた集団づくり を目指す。
- 〇自らの生活を向上させようとする態度を育て ス
- 〇児童自らが計画を立て、実践し、新たな目標 に立ち向かう意欲を育てる。

### 生活指導

- 〇集団としての自覚を高め、互いに協力す る中で、個性の伸長を図る。
- ○基本的行動様式を理解し、自ら実践する 児童を育てる。

#### キャリア教育

○「キャリアパスポートを」を活用し、自分をみ つめ、学級や学校での生活づくりに主体的 に関わり、将来の夢や希望に向かって諦め ずに努力する意欲や態度を身に付けさせる。

# 授業改善に向けた視点と主な方策

## 教育課程編成上の工夫

- ○算数科における習熟度別指 導を中心とした複線型・問 題解決学習を推進する。
- 〇モジュール学習としての 「すくすくタイム」を活用 した「読む、書く、計算」の 学力の定着・向上を図る。
- 〇白石農園で年間を通して野 菜を育てるなどの体験学習 を推進する。
- OICT器機を継続的に活用 した学習の推進、デジタル 資料の整理、蓄積を行う。

# 校内における研究や研修の工夫

- ○自己研鑽と校長・副校長に よる面接・授業参観によっ て、計画性をもち、個性 を生かす学級経営を進める。
- ○校内研究で、プログラミング 教育について研修し、児童に 論理的思考を身に付ける。
- ○児童の実態から、国語科に おいて語彙力を伸ばし、授業 研究を中心にして実践を積み 重ねる。
- ○区教育会、区教育委員会、 都研修センター等の実施する 研修に参加し、教育活動につ いての研究に努め、教職の専 門性と実践力を磨く。

## 指導内容・指導方法の工夫

- 1年生 聞く・話すなどの学習の基礎基本を繰り返し指導する。 興味や関心が高まる学習材の工夫開発をする。
- 2年生 「読む・書く・計算」の学習に自主的に取り組ませる。
- 互いに学び合う姿勢を養う。
- 3年生 「読む・書く・計算」の学習に継続的に取り組ませる。 自然に親しむ活動、自らの課題解決の学習、友達との伝え 合い・学び合いの学習を重視する。
- 4年生 話を聞き、内容を理解する活動を重視する。
  - 児童が自ら考え、相手と分かり合う意識を高める。
- 5年生 自主的・自発的な学習の習慣付けを図る。
  - 「めあてをもつ→調べる・まとめる→発表する→振り返る」 の一連の学習課程の定着を図る。
- 6年生 課題解決学習により、児童に達成感を味わわせる。
  - 話し合いやスピーチなどの活動を通して表現力を育てる。
- 音楽科 音楽に対する興味・関心を育てる。
  - 基礎的な技能や知識を身に付けさせて、個性を生かすようにする。
- 図画工作科 意欲的に制作活動ができるような題材を工夫する。 作業の方法は分かりやすく示す。制作はグループでの教

え合いを取り入れて、個性を認め合うようにする。

## 評価活動の工夫

- ○評価計画を立て、具体的な事例を基に、「児 童の変容した姿」で教育活動の評価を行う。
- ○児童が「めあて→実践→振り返り」という自 己評価をできる力を育てる。 ○教職員はPIan→ Do→Check →
- Actionのサイクルを確立し、成果のある教育を行う。

## 家庭や地域社会との連携の工夫

- ○コロナウィルス感染防止に配慮しながら、可能な限り保護者や地域に学校の教育活動を公開することを目指す。
- ○行事等の折にアンケートによる外部評価を取 り入れる。また、2学期には教育活動全般に わたる外部者による評価を行って次年度の教 育課程に生かす。
- 〇学校評議委員会を年2回開き、本校の教育活動について協議を進め、意見を学校経営に生かす。

# 小中一貫教育の視点

- ○児童・生徒の心身の変化や個々の発達に応じ た指導の在り方など、指導の連携を図る。
- ○教科により、乗り入れ指導を実施することで 小学校と中学校のスムーズな接続を図る。
- ○小・中のカリキュラムのつながりを意識した 課題改善カリキュラムを基に、基礎的な学力 の向上を図る。
- 〇問題解決的な授業を展開することで、児童が 自ら課題を設定し、主体的に学習を進めることができる力を伸ばす。
- ○他者とのコミュニケーションを円滑に行なえるスキルを身に付け、他者を理解し、互いに高め合えるような心情を育てる。 ○八坂中学校との合同研究では、全校での協力
- 〇八坂中学校との台向研究では、全校での協力 体制を確立し、指導法の開発や工夫改善を図 る。